めいわかわら版

vol. 77
2020.3.11
新装創刊号

理事長　八谷（はちや）　重之（しげゆき）

父が設立した社会福祉法人明和会を、理事長として牽引する八谷重之さん。幼い頃から福祉の世界で働く両親の姿を見てきましたが、ご自身はまったく違う道を志していたそうです。その夢を諦め、明和会に飛び込むまでの足跡をたどります。

まず、幼少期の思い出をお聞かせください。

社会福祉法人に勤める両親のもとに育ちました。施設の中にある職員住宅で暮らしていて、両親が忙しかったので施設の給食を食べて暮らしていました。その後父が独立し、明和会を立ち上げたのは1966年（昭和41年）で、私が小学校6年生のときです。

子どもの頃から、「いずれは自分が明和会を継ぐのだ」と考えていたのですか。

いいえ、オートバイ屋になりたかったので、父の後を継ぐとは深く考えていませんでした。それに子どもの頃はおとなしい性格で、赤面症でした。今でこそ理事長として、何百人の前に立って話すこともありますが、当時はそんなことはとても考えられませんでしたね。

赤面症を克服したのはいつ頃ですか。

高校3年生のとき、校則等について話し合う生徒総会が開かれたときのことです。どんどん厳しくなる校則について意見を出すのは、卒業を間近に控えた3年生ばかりでした。本来なら、これからも学校に残る1～2年生こそが積極的に声を上げるべきですよね。それなのに議論に参加してこない下級生を見ていたら頭に来てしまって、全校生徒の前で「お前たち自身のことだから、もっと真剣に議論に加われ！」と言ってしまったんです。その途端、人前で話をすることに対する抵抗感が一切なくなりました。あの経験は僕にとって、大きなターニングポイントになりましたね。

静岡トヨタ自動車（株）の70周年記念事業車両贈呈式

高校卒業後の進路について教えてください。

東京の大学に進学しましたが、はじめの2年間は北海道で過ごしました。福祉系の学部です。親に学費を出してもらうために選んだ学部です。福祉の道に進むつもりはあまりなかったので、脇道に逸れるタイミングを虎視眈々と狙っていました。

学生時代はいろいろなアルバイトをしましたね。玉ねぎの収穫・出荷や、夕張川の測量など、肉体労働が多かったです。玉ねぎの収穫のときは、進んでも進んでもしてしなく玉ねぎ畑が続いていて、北海道の広さを肌で感じました。北海道は本当に良いところで、今でもときどき遊びに行きます。

大学卒業後は、どのような仕事に就いたのですか。

就職活動の最中、父から「静岡県が新しい施設をつくるので、そこで働いたらどうだ」と声をかけられました。ちょうど就職活動に疲れた時期でもあったので、それも良いかな、と思って試験を受けることにしました。でも、今にして思えば本当に生意気だったんですが、就職試験でその施設に対する批判を書いたんです。当然呼び出されて叱責されました（笑）。父にもそれが伝わり、怒られることを覚悟したのですが、父の反応は予想とは少し違っていました。「本音は本音として持っていても良いが、それを就職試験で出すのは正しくない」と言われました。全否定されるかと思っていたので、正直なところほっとしましたし、父の言葉はすごく胸に落ちて納得しました。おそらくあのときに「将来父の後を継ぐ」という意識が生まれたんだと思います。

「オートバイ屋になる」という夢はきっぱり諦めて、福祉の世界に入ったのですね。

それが諦めきれなくて……。施設で2年ほど働いたとき、こっそりオートバイ屋の面接を受けたら即採用されたんです。それが2月のことだったんですが、父に伝えたら「外は、頭を冷やすにはちょうどいい寒さだな。少し頭を冷やして来い」と言われました。意味は十分わかりますよね。結局転職はできず、この業界で働き続けることになりました。

大好きなバイクを仕事にすることは叶いませんでしたが、今でもツーリングに出かけることは大切な趣味のひとつです。父の後を継いで理事長に就任した八谷さんは、明和会をどのように導いていくのでしょうか。

（後編に続く）

＜企業情報＞
■法人認可：1966年11月
■事業活動収入：21億円
※2019年6月時点

拠点紹介

めいわ月見保育園

めいわ月見保育園
園長
大石（おおいし） 里美（さとみ）さん

平成29年４月に開園した、認可保育園としては４か所目になるめいわ月見保育園のご紹介をします！

園の紹介

保育士や調理師を含め、19名のスタッフが働いている職場です。０歳～小学校就学前のお子さん93名が通園しています。太陽の日差しをたくさん取り込んで、温かい木のぬくもりがある園舎となっています。中央に園児全員が集うことのできる多目的ホールがあるので、子どもたちがのびのびと体を動かして遊んでいる姿が毎日見えます。クライミングウォールもあるので、雨の日でも運動ができるような施設です。

アピールポイント

スタッフみんなが思いやりを持っていて、互いに助け合いながら仕事をしています。行事の係は分担しているのですが、忙しそうなスタッフがいると違うクラスでも積極的にサポートする体制が自然に整っています。また比較的若い職員が多く、子どもたちと一緒になって思いっきり体を動かして遊んでいます。その姿を見た他の職員も一緒になって外で遊ぶので、全体としてエネルギッシュな保育をしていると思います。

思い出エピソード

入園したころには泣いてばかりいたお子さんでも、しばらく日が経つと目をキラキラと輝かせながら夢中で遊ぶようになります。「保育園が楽しい」と言ってもらえると、園長として非常に嬉しく思います。やはり子どもたちの元気な声と笑顔が一番です。また卒園式で修了証書を渡すときは、一人ひとりの成長を思い出してつい涙ぐむときもあります。

やりがい

保育士としての喜びは、子どもたちの成長を間近に見ることができる点だと考えています。子どもたちが歩けるようになったり、お話できるようになったり、苦手だった野菜を克服したり、逆上がりができるようになったり……。本当に日々成長を感じています。またそうした園内での活動の様子が、お子さんと保護者とのコミュニケーションのきっかけになればいいなと思っています。連絡ノートだけでなくクラスのボードを活用することで、その日の活動内容を保護者の方に伝えています。

今後の目標

全員が楽しんで通って、笑顔が溢れるような保育園にします。また、子どもたちが主体的に遊びに熱中できるような環境づくりを進めようと考えています。1つの遊びに対して、みんなが様々な工夫を凝らして楽しめたらいいなと感じます。

めいわ月見保育園
濱田（はまだ） 由香里（ゆかり）さん

保育園の良いところ
年上のクラスの子が、下の子たちに優しく接してくれている姿が素敵だなと思います。そうすると、下の子たちにも「私たちも年下の子に優しくしようかな」という気持ちが自然に芽生えるので良い循環だと思います。

思い出エピソード
2018年度は、私にとって初めて５歳児クラスの担任を受け持った年でした。卒園式で子どもたちを送り出すときに、様々な思い出や経験したことが蘇ってきて胸が熱くなったことを今でもよく覚えています。保護者の方にも「ゆかり先生が担任でよかった」と言っていただき、今まで頑張ってきて本当によかったなと感じました。

子どもと接する上で気をつけていること
最初のころは、１歳のお子さんが話す言葉をなかなか理解できなかったので、できるだけ表情でみんなとコミュニケーションを取るように意識していました。今ではおしゃべりができる子も増えたので、言葉でのコミュニケーションという新たな楽しさも増えました。「ゆかりさん」って呼んでくれたり、ぎゅっと抱きしめてくれたりしたときには喜びもひとしおです。

今後の目標
保育士７年目になるので、今後も色々な知識や技術を学びながら自分らしい保育をしていきます。また、子どもからも保護者からも信頼してもらえるような保育士を目指します。

めいわ月見保育園 スタッフ紹介

１歳児クラス担任の濱田さんと5歳児クラス担任の井村さんに、
保育園での思い出や子どもと接するときに気をつけていることを伺いました！

めいわ月見保育園
井村（いむら） 優（ゆう）さん

保育園の良いところ
ホールが非常に広いので、様々な遊びをのびのびと楽しむことができます。私自身運動が得意ということもあり、2019年から体を動かす遊びを多く取り入れました。社会的にも子どもの運動能力低下が問題になっているので、保育園のときから運動する機会を提供したいという思いからです。ドッジボール、鉄棒、縄跳びなど色々と教えながら、子どもたちの運動能力向上を図っています。

思い出エピソード
担任を持った子どもたちが卒園し、小学生になったあとも時々顔を見せに来てくれます。子どもたちに「先生が運動を教えてくれたおかげで、マラソン１位になったよ」「走るのが得意になったよ」と言ってもらったり、保護者の方に「ありがとうございます」と言ってもらったりすると、本当にやってきてよかったなと思います。

子どもと接する上で気をつけていること
子どもたちがやりたいことを、最後まで見届けるようにしています。例えば屋内に、身近にあるテープやハサミを自由に使えるコーナーを設置して、子どもたちが好きな遊びを自分たちで考えて楽しめる場所を提供しています。

今後の目標
まだまだ未熟な部分もあるので、研修や先輩職員からの指導を通して成長を続けます。また音楽など苦手な分野もあるのですが、苦手意識を持たずに努力して保育につなげたいと考えています。